春の超特大号! 3冊セットで新車情報てんこ盛り!!

令和3年4月1日発行
(毎月1日発行)
昭和28年11月24日
第三種郵便物認可
第57巻 第6号

オートバイ

国内モデルは"GB"を継承!

Honda GB350

AUTOBY 4 2021

新型バイク全部のせ!

国産車総アルバム 最新版! 2021

新型ハヤブサ徹底研究!

SCOOP!

YAMAHA YZF-R7追加情報

別冊付録❶

4メーカー別! 国産車総図鑑2021

別冊付録❷

RIDE レジャーバイクの世界

スウェーデンのEVメーカー「cake」

二輪という乗り物の新しい価値を定義する

high performance electric motorbikes

cake

2018年1月にワールドプレミアとなったスウェーデンの電動バイクメーカー「CAKE」。その最初のプロダクト／Kalkは高いデザイン性とパフォーマンスで話題となった。 パワースポーツへの情熱と環境への高い意識を持つこのブランドについて掘り下げてみる。

PHOTO:CAKE　TEXT:河野 正士

CAKEのプロダクト写真のなかには、このように雪景色の中を走るシーンが多く見られる。派手なアクションのなかに環境へのインパクトが少ないこともしっかりとアピールされている。

一般道走行不可のファンライドモデルのコクピット周り。出力特性や減速特性を変化させるモードセレクトがダイヤル式となる。このライダービューも既存バイクと大きく違う。

乗ってみたいと思わせるCAKEにはそのチカラがある

「CAKE／ケイク」はまさにプロフェッショナルの仕業である。創始者でありCEOであるステファン・イッターボーンは若い頃にスキーのダウンヒルに熱中し、ウインタースポーツやグラビティスポーツに精通した人物。同時にインテリアをはじめとするさまざまなデザインおよびマーケティング会社を起ち上げ、かつてはスウェーデンの家具量販店イケアでもその手腕を発揮。「CAKE」以前はスノースポーツと自転車のライディング&プロテクション・ギアを開発および販売する「POC」を起ち上げ、オリンピックや世界選手権、X-Gamesなどで活躍するアスリートもサポートしていた。

要するにデザインとマーケティングに長け、いくつものスタートアップも経験して新しいプロダクトやブランドの付加価値を創造し、それをいかに提供し積み上げるかを熟知しているのだ。CAKEのプロダクトに垣間見える良い意味での違和感と、しかし今までに無いワクワク感は、そんな手練れにだからこそ生み出された、のかもしれない。

MTBとオフロードバイクをミックスしたスタイルを持つ「Kalk／カーク」は、ファンライドモデル（一般道の走行不可）とストリートモデルをラインナップ。それぞれにサスペンションやホイールサイズが異なるバリエーションモデルを持っている。また2019年EICMAで新しいプラットフォームを持つスクータースタイルの「Ösa／オーサ」を発表。そのモデルラインナップを増やしている。この「Ösa」については次号にて考察を述べるため、ここではその詳細を割愛する

彼らのサイトを見て思うのは、必要以上に〝エコ〟や〝サステナビリティ〟といった言葉が見られないこと。もちろん各モデルのリリースや会社概要にはゼロエミッション社会への貢献がしっかりと謳われている。しかし各プロダクト・ページは、「CAKE」とともに得られる世界観が強くアピールされている。

このアプローチには大いに共感する。パワーや車重、連続走行時間や充電時間は大いに気になるが、それは電動バイクという新しい乗り物の評価とは直結しない。内燃機車と比べても意味が無いのだ。もちろんスペックシートを見る以上、「Kalk」は多くの電動バイクに引けを取らない。それであるならば、この独特のスタイルと電動のパフォーマンスがどんな走りを見せるか大いに興味がある。そう思わせた段階で「CAKE」のファーストステップは成功と言えるだろう。

サスペンション性能やホイールサイズを変更して異なるキャラクターを造り出したレースモデルとファンライドモデル、ストリートモデルをラインナップ。スクーターモデル「Ösa」も見える。

仕様によってバラツキがあるものの Kalk の車重は 70 ～ 85kg。その気になればこうやって持ち上げることも可能だ。フレームはアルミ押出材とCNC 加工材を組み合わせている。

オーリンズ製サスペンションを装着した Kalk のストリートモデルは前後 19 インチホイールを履くが、ファンライドモデルは自転車では一般的な 24 インチホイールを採用している。

オフロードバイクに近いホイールサイズをチョイスし、足周りを強化しタイヤチョイスの幅を広げたレース用シリーズ。オーリンズ製サスペンションも専用にセッティングされている。

AB2104_110-113_CAKE_4.indd 110-111　2021/02/18 9:24

オフロード×MTBスタイルの「electric motorbikes cake」電動バイク・ラインナップ

フレームやモーター、バッテリーと言った車体の基本骨格は同じながら足周りや公道走行の可否によって複数のモデルがラインナップされるCAKEの「Kalk／カーク」シリーズを紹介する。

11kW モーターと1860 セルを使用した容量50Ah/2.6kWh のリチウムイオンバッテリーを搭載、オーリンズ製サスペンション搭載の Kalk OR がベース。前後 24 インチホイールの OR に対し、独自セッティングの前後サスペンションと前後 19 インチホイールの INK、F19 ／R18 インチホイールの Race をラインナップ。

Kalk OR

パフォーマンスやディテールが異なるレース&ファンライドモデル

Kalk Race / Kalk OR / Kalk INK

トップスピードは約 90㎞ /h、フルパワーモードなら約 1 時間、エンデューロ&アクティブトレイルライディング・モードなら 1 ～ 2 時間、最高速 45㎞ /h のエクスプローラー・モードで 3 ～ 4 時間の連続走行が可能。3 種類の減速モードも選択できる。

Kalk AP

Kalk& INK

南アの密猟監視のための特別仕様車

Kalk AP

南アフリカのワイルドライフ・カレッジと携帯太陽光発電メーカーの Goal Zero とタッグを組み、密猟監視のために開発したのがこの「Kalk AP」。燃料を確保できない場所でも無音で監視活動ができる電動バイクのメリットを活かした。

保安部品を装着したストリートモデル

Kalk& / Kalk& INK

フレーム、モーター、バッテリーといった車体の基本構成は上記の Kalk ファンライドシリーズと共通ながら前後 19 インチホイールを装着。&は前後オーリンズ製サスペンションを、&INK はオリジナルサスペンションを採用。

ELEKTRA FUTURE SAINT-TROPEZ 2020

騒音や環境への負荷が少ないことから市街地での活躍できるという電動バイクのメリットを活かし市街地のレースを敢行。ファンのためだけじゃなく市民にバイクを戻す。それも「CAKE」の新しい試みだ。

Photos: Laurent NIvalle

週末の 2 日間を掛けて開催されたレースは、土曜日にタイムトライアルの予選を行い上位 3 名が日曜日の決勝に進出。その決勝では 1 対 1 のレースを行い、勝ち数の多いライダーが勝者となった。

マシンは前後 24 インチホイールを装着する CAKE のベーシックモデル「Kalk OR」のみを使用。バッテリーの交換以外はパーツ変更禁止。イコールコンディションで行われた。

フランス・サントロペの街中に出現したオフロードコースと「cake」

ライダーとともに欧州中からバイクファンが集まりカスタムバイクイベントのような雰囲気も生まれていた。このELEKTRA FUTURE を雛形にCAKEは2021年世界選手権を開催する。

サントロペの街中に土を入れて作り上げたコースは約60×60m。軽量でハイパワーのKalkの特性を活かせば長いストレートを必要とせずともアグレッシブなレースが展開できる。

電動バイクだからできる街中でのレース

そのアイディアを聞いたのは2019年のEICMAだった。「ELEKTRA FUTURE／エレクトリカ・フューチャー」と名付けられたそのイベントは、南フランス、コート・ダジュールにある避暑地／サントロペの街中にオフロードコースを作り、世界初となる「CAKE」のワンメイクレースを行うというものだった。当初6月開催を予定していたが、コロナ感染症の蔓延によって開催が9月に延期されたが、電動バイクの特性を活かし、多くの人たちが観て楽しめる市街地レースを実現した。主催者のビンセント・プラットとオリビエ・ラクエレックは、欧州で強い影響力を持つカスタムバイクイベント／ホイールス&ウェーブスを起ち上げた主要メンバーであり、「ELEKTRA FUTURE」はそこから離れ、新しいバイクとカルチャーを求め誕生したイベントだ。参加したのはモトクロスやエンデューロ、モタードやMTBの世界選手権および欧州各国の国内選手権を戦うトップライダーばかりだ。CAKEはここでの成功を足がかりに、2021年は新しいワンメイクの選手権を行うと発表。その動向にも大いに注目したい。

AB2104_110-113_CAKE_4.indd 112-113 2021/02/18 9:24